

リスクをマネージできる投資家へ

・ ‘マネージする’ とは、きちんと経営管理をしていくことである。経営者が企業を経営することと、投資家が投資をすることは本質的によく似ている。

・ 2008 年のリーマン危機の時に比べて、第 2 波の 10 年春のギリシャ危機はどうだったか。時にマーケットはバブルに浮かれたり、異常な悲観に陥ったりする。世の中も断層的に変化する。平時のときの投資判断は通常のリスクとリターンで考えればよいが、数十年に一度の大変革の時には予想すら難しい。

・ そういう場面では何が起きても耐えうるような覚悟と備えが必要である。本当に先行きが分からない時には、最悪の事態に備えて損失を最小化するようなミニマックスを考えておくことである。

・ 投資の本質は、投資対象の中身をよくみて、その価値を知ることである。また資金の性格と目的をよく見定めておく。自分は何のために投資をするのか。何でもよい、儲かればよいのだ、という考えでは、投資は続かない。投資には予想や期待に反することも起きる。その時に自分の考え方がはっきりしていれば、我慢もできるし、損切りしても納得できる。そうでなければ不安と不満が高まって、嫌になってしまう。

・ 不確実な中でも、コントロールできるものは自分で判断し、コントロールできないものについては慎重な考え方を持って対応していくことである。こうした「リスクをマネージできる投資家」には千載一遇のチャンスがくる。どう挑戦するか、そこがリサーチのしどころである。

鈴木行生